

自由詠

題詠 『色』

一人居ても
一人行動も
こもる暮らしも
普段通りの
コロナウイルスに関係なく

透明は
色をもたぬ
なれぬその無色に
あこがれる
歳を経て

田上好江

杉本 明美

言葉にすると
心がみえる
せつかつくなら
上手でなくてもいい
温かい言葉で

芳香 漂う
うす紫色の花房
八分咲きで切り落とされる
人々が寄り来るからと
黒木の大藤 コロナに勝てず

玉田 久美子

かよべえ

五月の風は
特別の風
葉っぱの香の運んでくる
爽やかな初夏の
薫風

宮島 かつえ

音色、ねいろ 声色、こわいろ 音色
春色、秋色
色気
：
「色」って
目に見えるだけじゃないんだ

杉下 啓恵

